

未来進行形のニュアンス

石本 祐子

1. はじめに

平成17年度大学入試センター試験、第5問の問題文に次のような表現があった。テレビ局の見学会で小学生を案内しているMr. Wright氏の台詞である。

(1) In 30 minutes, Ms. Cole here will be pointing to different parts of the blue screen behind her and talking about the weather. (下線筆者)

文法的には未来進行形に分類される用法である。多くの高校生が英語嫌いになる理由の1つが、英文法になかなかなじめないことがあげられると思う。英文法をきちんと身につけると、正しく英文を読んだり書いたりできるのみならず、聞いたり話したりする際にもおおいに役立つのだが、学習段階では、無味乾燥な規則の暗記と思われがちだ。なんとかこのようなイメージを払拭できないであろうか。筆者は表現の違いはニュアンスの違いにつながることを教えることで払拭の手立てとする一案を提示したい。

2. 未来進行形の扱われ方

手元にある2,3の高校生向け学習参考書を見ると、未来進行形には次の2用法が紹介されている。

① 未来において進行中の動作を表す。

(2) I'll be playing tennis at this time tomorrow.

(明日の今ごろは、私はテニスをしているだろう)

(3) I'll be flying to Miami this time tomorrow.

(明日の今ごろは飛行機でマイアミへ向かっているだろう)

② 「～することになっている」というすでに計画された未来の出来事を表す。

(4) Ron will be meeting you at the airport tomorrow. (明日、ロンがあなたを空港に迎えに行くことになっている←「ロンが出迎える」ことがすでに決まっている)

(5) Will you be going to the post office this afternoon? (今日の午後、郵便局へ行くご予定はありますか)

(6) I'll be meeting him at the airport next week. (来週、彼を空港に迎えに行くことになっている)

ただし、②の用法を紹介しない参考書もある。

以上の2用法のうち、①は比較的教えやすい用法である。なぜなら、あくまで〈動作の進行〉を表す表現だからである。一方、②の用法は高校生に教えるには少々やっかいである。なぜなら、〈動作の進行〉を表さないからである。冒頭に紹介した(1)の文は②の用法であると筆者は考える。日本語にすると、「30分したら、コールさんがここでスクリーンの前に立ってさまざまな場所を指し示して天気の話をすることになっています」になるであろう。

では、未来進行形と単純未来形ではどのような違いがあるのだろうか。

3. 単純形と進行形

動詞の単純形は「完結性」を表し、進行形は「不完結性」を表すことはよく知られている。(大江三郎) 生徒には、次のような例文を比較させ理解を促すことができるであろう。

(7) He wrote a letter.

(8) He was writing a letter.

「彼は手紙を書いた」と「彼は手紙を書いていた」と日本語にしても生徒は違いに気づくと思われる。つまり、(7)では彼が手紙を書く行為が過去のある時間帯に完結しているのに対し、(8)ではその行為が完結していない。

ちなみに、「完結性」、「不完結性」を生徒に認識させると、知覚動詞を用いた次の例文の違いが把握しやすくなる。

(9) I saw a cat drink milk.

(10) I saw a cat drinking milk.

単純形が「完結性」であるのだから、(9)は「ミルクを飲むところを一部始終見た」になるし、進行形は「ミルクを飲んでいる一時点を見た」になる。単純形と進行形の違いに注意が必要なのは、知覚動詞のときだけではないと生徒に気づかせることもできるだろう。

そこで生徒に次のような例文を示し、未来の場合について類推させてみたい。

(11) She will write to me next week.

(12) She will be writing to me next week.

(11)では、「手紙を出すことが来週完了する」ことで、その動作の確実なことを指し断定的であり、(12)ではまだその過程にあるのだから、その動作の断定的な面はぐっと弱まる(小西友七)ことを説明したい。さらに、次の例文を比較させ、どんな違いがあるかも考えさせたい。2文とも「ブラウンさん、あなたもいらっしゃいますか」ほどの意である。

(13) Will you come too, Mr. Brown?

(14) Will you be coming too, Mr. Brown?

「完結性」と「不完結性」に生徒は目を向けることができると思う。まず、さまざまな類推を通して意味の違いを予想させ、(14)のほうが断定を弱めていることに気づかせる。その後、進行形が柔らかさを添え、遠慮や謙遜、気兼ねなどの意味合いを表すことを補足したい。また、相手の〈意思〉を尋ねる Will you ~? によって〈依頼〉を行っているのが(13)の文、相手の〈計画・予定〉を尋ね、そつがなく丁寧な表現になっている(安藤貞雄)のが(14)の文である。比較的英語を理解している生徒には、この点を付け加えてもよいだろう。

これらの違いは単なる英文和訳では表しきれないものである。英語学習で日本語訳に頼る傾向の強い生徒が多く見受けられるが、必ずしも日本語に表しきれないものもあることを知ってもらいたい。上記のような微妙なニュアンスの違いを紹介し、表現の違いがもたらす意味の違いに関心を持たせたいものである。

日本語であろうと英語であろうと、同じ人間の言葉であるから、人間のさまざまな心の動きを反映していることは確かである。それを知る手がかりが、生徒が日ごろ悪戦苦闘している英文法の中に隠され

ていることを少しでも理解してもらえればと思う。

4. おわりに

村田勇三郎(1982)によると、未来進行形は上記のような理由から、聞き手に圧迫感を与えることが避けられるので、日常会話で多用されるという。未来進行形は、口語英語を理解する上でも重要な表現といえるであろう。

ところで、ベストセラーの『ハリー・ポッター』の原文にも未来進行形がよく用いられている。以下に原文とその訳を紹介する。

(15) We'll be putting these tents up by hand!

(テントは手作りですぞ)

(16) You'll be supporting Ireland, of course?

(あなたたちはもちろん、アイルランドを応援するんでしょう?)

(17) They'll be talking about this one for years.

(この試合は、これから何年も語り草だろうな)

(18) They'll be driving, of course?

(当然、車で来るんだろうな?)

日本語の「~している」に必ずしも相当しない進行形が、生徒の英文法への関心を高めるきっかけになることを願って拙稿を閉じることとする。

(旭川明成高等学校教諭)

参考文献

- 安藤貞雄『英語教師の文法研究』大修館書店 1983
 小西友七『現代英語の文法と語法』大修館書店 1974
 大江三郎『学校英文法の基礎 第四巻 動詞 (1)』
 研究社出版 1982
 村田勇三郎『機能英文法』大修館書店 1982

引用文献

- Rowling, J. K. *Harry Potter and the Goblet of Fire* Bloomsbury 2000
 Rowling, J. K. 松岡佑子訳『ハリー・ポッターと炎のゴブレット』上・下巻 静山社 2002